

第19回 福岡市都市景観賞 受賞作品

市民の思いが伝わる景観賞

■今年の福岡市都市景観賞の異色は何と言っても「福岡造船(株)福岡工場」の受賞。荒津大橋と魚市場に囲まれた潮の香りに充ちた一画で、新しい大型船が3艘建造されていた。日々変化する楽しい景観である。今回受賞した「室見川緑地」とともに、確かに建造物にはちがいないが、むしろ情景であると言ってもいい。審査委員会では、昨年からどこまでを景観として評価するかで議論が沸いてきた。室見川緑地は、つくり過ぎずに程良く自然を楽しむことができ、この流域から離れられないファンを増やしている。今年はこの2件を積極的に評価することにしたが、それぞれが個性的な福岡の顔として市民に親しまれ、多彩で豊かな生活の一場面をつくり出している。

「福岡工業大学」の美しく手入れの行き届いたランドスケープは、審査員全員が感心させられた。「綾杉酒造場」は、移転して歴史を残そうとするオーナーの心意気が伝わる。

「福岡市営地下鉄七隈線」は、独創的で美しい天神南駅、見学者や周囲の景観を考えた橋本車両基地、心地よく利用できる各駅や車両など、限られた予算の中で質の高い上品な景観を提供した価値を、誰もかが認めるところであろう。

今回のテーマとして設けた「サイン」には、「呉服町ビジネスセンターの地下鉄出入口サイン」だけが入った。これは民間がつくったもので、大きなSUBWAYの文字と建物と一体化させた色彩が力強い。

特別表彰は、「路上違反広告物追放推進団体による違反広告物撤去活動」と「エンジョイスペース大名」である。市民の努力とユニークな活動が景観づくりの礎になっており、心から感謝したい。

エッセーは、今年は順調に4点が選定された。博多湾の魅力や思い出の情景が伝わってくる。いつも多数の応募があり、楽しく読ませていただいている。エッセーによって新しい発見があり、景観の深い意味を教わる。

今年の景観賞は、優れた建造物というだけでなく、受賞した景観に多数の人々の思いや努力がこめられていることが印象的だった。来年は、景観賞20周年。成人を迎える景観賞にご注目いただきたい。

審査委員長 佐藤 優

福岡市都市景観賞審査委員会委員  
(50音順 敬称略)

- 岡本 均 西日本短期大学教授
- 落合 太郎 九州産業大学教授
- 菊池 成朋 九州大学教授
- 佐藤 優 九州大学教授 <委員長>
- 中村 敏子 九州朝日放送(株)社長室広報部担当部長
- 西山 徳明 九州大学教授
- 三浦 佳世 九州大学教授
- 森岡 侑士 九州産業大学助教授
- 大場 美徳 都市整備局長

The 19th  
**FUKUOKA**  
Urban Beautification Award  
2005

Fukuoka City Agricultural Co-operatives Head Office Building

**福岡市農業協同組合本店ビル**

中央区天神4丁目9番8号

用途:事務所/完成年月:2005(平成17)年7月  
所有者:福岡市農業協同組合/設計者:(株)青木茂建築工房  
施工者:竹中・上村改修工事共同企業体



築35年の事務所ビルの再生事例である。耐震性の不安や設備の老朽化、外壁の劣化等の問題を解決すると同時に、新たな外観を作り出すことが意図されている。設計を担当した青木氏は、これまでもこのような「リファイン建築」を数多く手掛けてきている。ただ、ここでは他の作品のように大胆な造形が追加されることはなく、都市を構成するパーツとしての外観となっている。その姿は、オフィス街の角地に立つ建築として相応しく、また、通りの特性に配慮するという、アーバンデザインの発想を読み取ることができる。

都市景観賞はこれまで現代作品といえれば新築事例がその対象となってきた。今後の都市景観を考える場合、このような再生事例が受賞したことの意義は大きい。

(審査委員 菊地 成朋)

環境問題への取り組みは、自然が主体であったり、省エネや省資源が主体であったりどどちらか一方的に偏りがちであるが、福岡工業大学は環境問題を総合的に捉え、環境の課題を解決することが当該地域の景観向上にも寄与するというの範を示している。キャンパス・リニューアル計画は、緑化の創出だけでなく池や裏山の保全にも力をいれていることから、単に外装の再計画のみならず質的な転換を目指していることが伺える。



良い風景は、良好な生産や穏やかな生活の営みの証である。今後は地域の景観の一構成要素に止まることなく、住民と一体になった地域の風景作りを目指し、そのような大学運営が教育に生かされて良い風景のもとで確かな人材が育つことを期待する。

(審査委員 岡本 均)



Fukuoka Institute of Technology  
**福岡工業大学**

東区和白東3丁目30番1号

用途:学校(高等学校・短期大学・大学)  
完成年月:2004(平成16)年2月  
所有者:学校法人 福岡工業大学/設計者:(株)那の津寿建築研究所  
施工者:(株)竹中工務店九州支店、東洋緑地建設(株)

FUKUOKA SHIPBUILDING CO.,LTD.FUKUOKA SHIPYARD

**福岡造船(株)福岡工場**

中央区港3丁目3番14号

用途:造船所/完成年月:1947(昭和22)年11月  
所有者:福岡造船(株)



福岡の海の景観といえば、人々のレクリエーションの場としてのウォーターフロント、能古島や志賀島の見える景色、ひいては博多湾を塞ぐ倉庫群など通常は思い浮かぶ。商都の都心の賑わいの中には、その近さにもかかわらず「海」を実感させるものは意外に少ない。この造船所は、鮮魚市場に向き合い、都市高速道路の荒津大橋の眼下で、数万トンのタンカーを造り続けている。行き交う舟や車を借景として、福岡の「つくる」という「力」を直接に語るごとくにダイナミックな景観としてあり、それは感動的でもある。造船とは古来「アーキテクチャー(建築)」であることを思い起こさせ、景観の新しい見方・考え方を提示する好例としても特に推奨したい。

(審査委員 森岡 侑士)

FUKUOKA Urban Beautification Award 2005 一般表彰 General Commendation Review

Ayasugi Brewery  
**綾杉酒造場**

南区塩原1丁目12番37号

用途:工場兼店舗/完成年月:江戸末期(昭和33年移築)  
所有者:中尾卯作/設計者:[堀](株)重岡工務店  
施工者:[移築]辻組<現:九州建設(株)>[堀](株)重岡工務店

那珂川の土手沿いに江戸時代から続く酒造場がある。濾過、火入れ、瓶詰めなど出荷前の仕上げ作業が行われている。もともと天神の目抜き通りにあつて賑わう商店街の一角に建っていたが、昭和通りの拡幅を機に移築したという。当時、塩原はあたり一面の田園風景であった。いつの間にか高層マンション群に囲まれ、まちなみの変化のなかに埋没した感がある。しかし開け放たれた玄關土間に一歩踏み込むと、高々と梁が組まれた懐かしい和の空間が現れる。やや風化した外壁には、歴史の重みも塗り込められているようだ。変化が激しい時代にあつて変わらないことから生まれる価値もある。風景の記憶を喚起させることも都市景観賞のひとつの役割であろう。

(審査委員 落合 太郎)

